

タカラバイオ株式会社 2024年3月期 通期決算(補足資料)

1. 2024年3月期 通期業績について

【決算短信 13 ページ】

(売上高)

- ・ 「試薬」は、319億6,100万円となり、前期比339億6,300万円(▲51.5%)の減収となりました。このうち、一般研究用試薬は309億4,900万円(前期:300億2,400万円)、新型コロナウイルス検査関連試薬は10億1,200万円(前期:359億100万円)となりました。
- ・ 「機器」は、8億9,200万円となり、前期比4億8,200万円(▲35.1%)の減収となりました。
- ・ 「受託」は、79億9,700万円となり、前期比2億200万円(▲2.5%)の減収となりました。再生医療等製品関連受託は減収でしたが、遺伝子解析/検査関連受託は増収となりました。
- ・ 「遺伝子医療」は、26億5,300万円となり、前期比1,200万円(+0.5%)の増収となりました。
- ・ 以上により、売上高は、435億500万円となり、前期比346億3,600万円(▲44.3%)の減収となりました。なお、2024年3月期まで「試薬」に含めていた mRNA 製造用関連製品(研究用)等の売上高を、2025年3月期より「遺伝子治療」に含める組み替えを行いました。

(売上総利益)

- ・ 売上総利益は、減収などにより269億800万円となり、前期比178億5,600万円(▲39.9%)の減益となりました。

(営業利益)

- ・ 販売費及び一般管理費は、人件費等は増加しましたが、研究開発費は選択と集中に努めたため減少しました。このため、営業利益は30億300万円となり、前期比175億3,700万円(▲85.4%)の減益となりました。

(期末配当)

- ・ 期末配当は、連結計算書類における特別損失を加味せずに算出された想定当期純利益の35%を目途として剰余金の配当を行う方針であります。資本効率の改善に努めるべく、当期の期末配当につきましては期初(5月11日)に発表した1株あたり17円を据え置きます。

※当社株主総会(2024年6月)付議予定

2. 2024年3月期通期業績(前回予想:11月14日公表)との比較

- ・ 売上高および売上総利益は、前回予想を下回りましたが、販売費および一般管理費の支出を抑えたため、営業利益は、前回予想を300万円(+0.1%)上回りました。

3. 2025年3月期 通期業績予想について

【決算短信 15 ページ】

(売上高)

- ・ 「試薬」は、339億6,900万円、前期比25億6,300万円(+8.2%)の増収予想です。
- ・ 「機器」は、15億2,000万円、前期比6億2,700万円(+70.3%)の増収予想です。
- ・ 「受託」は、100億円、前期比20億200万円(+25.0%)の増収予想です。再生医療等製品関連受託および遺伝子解析/検査関連受託ともに増収を予想しています。
- ・ 「遺伝子医療」は、34億1,000万円、前期比2億100万円(+6.3%)の増収予想です。mRNA製造関連酵素などの製造補助剤(AM製品)の増収を見込んでいます。
- ・ 以上により、売上高は489億円となり、前期比53億9,400万円(+12.4%)の増収を予想しています。

(売上総利益)

- ・ 売上総利益は、増収により、前期比26億9,000万円(+10.0%)増益の295億9,800万円と予想しています。

(営業利益)

- ・ 販売費及び一般管理費では、人件費等への積極的な投資を継続する計画ですが、研究開発についてはプロジェクトの選択と集中を進める計画です。
- ・ 通期営業利益は、前期比19億9,600万円(+66.5%)増益の50億円を予想しています。なお、当期は売上高が下期に偏重する予想のため、営業利益予想の進捗の見通しは、上半期では通期の約3%(第1四半期は営業損失となる見込み)、下半期が同97%となる見込みです。

(期末配当予想)

- ・ 期末配当は、想定当期純利益予想の35%を目途として剰余金の配当を行う方針ですが、資本効率の改善に努めるべく、1株につき17円の予想です。

4. 試薬事業の状況について

- ・ 経済情勢等を背景として世界的にライフサイエンス市場のアクティビティが低下し、2024年3月期は当社の試薬業績も大きな影響を受けました。このような状況に対し、当社では、グローバル戦略(グローバルで多極的なマーケティング/製造/営業戦略)を進めることにより2025年3月期は増収を見込んでいます。
- ・ 日本においては民間検査センターなどへのアプリケーション検査キット、米国においてはRHT(生殖医療技術)分野などのLDT(ラボ開発検査)向けのOEM/カスタム製品、欧州においては遺伝子工学関連のOEM/カスタム製品に注力します。中国においては中国市場向け新製品の開発や価格対応などを進めます。

(参考: 試薬地域別売上高)

(億円)	2024年3月期	2025年3月期	前期比
	実績	予想	
日本	73	69	▲3 (▲4.8%)
米国	126	135	+9 (7.2%)
中国	57	73	+15 (+26.2%)
欧州	36	38	+1 (+5.3%)
韓国	13	14	+1 (+7.8%)
印度	6	8	+1 (+30.4%)
合計	314	339	+25 (8.2%)

- ※ 2025年3月期予想には新型コロナウイルス検査関連試薬の売上は見込んでおりません。
- ※ 日本の2025年3月期は減収の予想ですが、これは前期実績に新型コロナウイルス検査関連試薬の売上高(約10億円)が含まれていることが影響しています。その影響を除くと一般研究用試薬の連結売上高は前期比約6億円(約10%)増収の見込みです。
- ※ 2024年3月期まで「試薬」に含めていた mRNA 製造用関連製品(研究用)等の売上高を、2025年3月期より「遺伝子医療」に加えております。本表の2024年3月期実績は、当該変更を反映して組み替えております。

以上